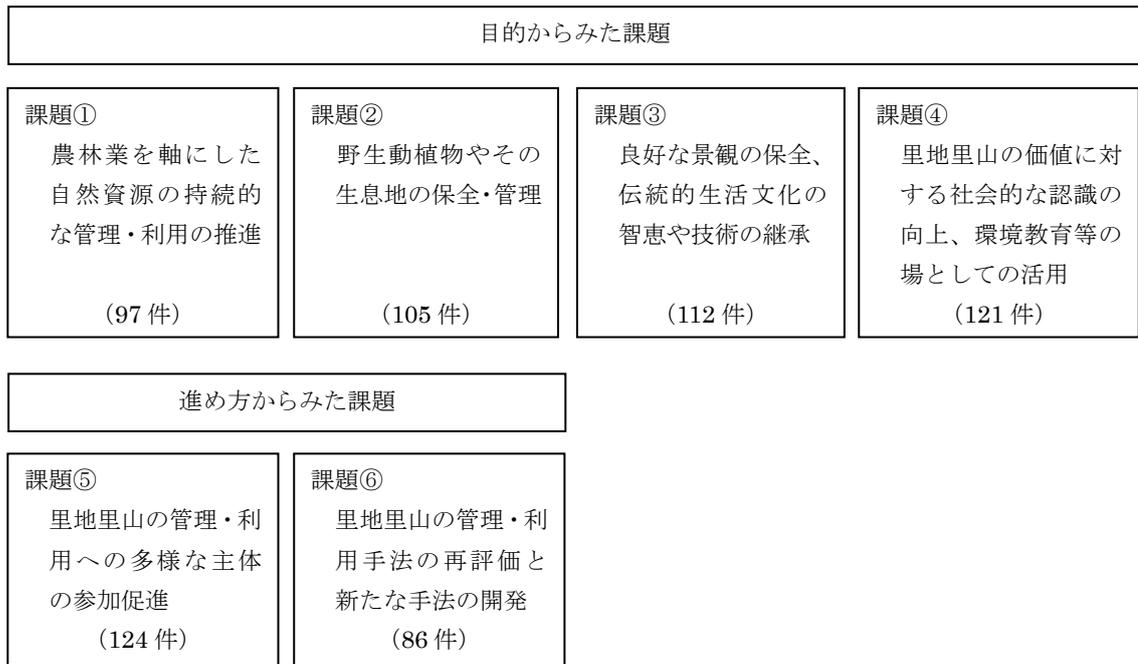


特徴的な取組事例のとりまとめ

1. とりまとめの考え方

(1) 平成 20 年度にとりまとめた 60 事例抽出の考え方と手順

まず約 600 事例から抽出整理した 384 事例（平成 21 年度第 1 回検討会議資料 1）について、里地里山保全活用の検討課題（6 区分）と「検討の視点」を設定し、該当する特徴的な事例をグループ化した。



注：（ ）内は、当該課題に対応した取組が行われており参考となるものとして抽出された事例件数。多くの事例は複数の課題にまたがって分類される。

図 課題による事例のグループ化

次に、課題ごとに設定した「検討の視点」ごとに収集した事例の分析を行い、取組内容の広がりや各取組を促進させる要因を整理した上で、それに合わせて特に他地域の参考になると考えられる特徴的な取組事例 60 件をとりまとめた（表 1 「平成 21 年度第 1 回検討会議資料」）。

(2) 事例追加の考え方と手順（22 年度のとりまとめ方針）

1) 目的からみた課題（課題①～課題④）に対応する取組事例

- ・表 1 の「検討の視点」ごとに分析した「取組促進要因」について、より異なるタイプの取組が入るよう留意し、該当する事例をアンケートの 384 事例、その他情報（過年度調査による自然資源の持続可能な利用・管理に関する手法例、「にほんの里 100 選」等）の中から拾い上げ

2) 「多様な主体の参加促進」の仕組に関する取組（課題⑤）に対応する取り組み事例

- ・表 1 の「検討の視点」ごとに分析した「取組促進要因」について、異なるタイプの事例が

- できるだけ多くなるよう留意するとともに、「地域（大都市近郊、都市周辺、中山間地、奥山周辺）」にも着目し、1）と同様、アンケートの 384 事例、その他情報の中から拾い上げ
- 3) 「管理・利用手法」に関する取組（課題⑥）に対応する取組事例
- ・表 1 の「検討の視点」ごとに分析した「取組促進要因」について、異なるタイプの事例ができるだけ多くなるよう留意するとともに、「対象となる二次的自然やその利用技術・手法」の違いにも着目し、1）と同様、アンケートの 384 事例、その他情報の中から拾い上げ

(3) 立地条件や社会的条件からみたりまとめ方針

1) 特異な立地条件

- ・当初の 60 事例では特異な立地条件にある里地里山での取組事例が少ないため、島嶼^{※1}、高地^{※2}などに該当するものについて、情報を補足して事例を拾い上げ
 - ※1：立地からみて本州、北海道、四国、九州及び沖縄本島と離れている場合は「島嶼」とし、特異な立地条件にあるものとした。
 - ※2：本とりまとめにおいて、標高約 600m 以上を「高地」とした。

2) 地域的な分布状況

- ・二次林タイプによる地帯 6 区分について、検討課題ごとにみて不足している地帯区分の事例を拾い上げ
- ・都道府県及び政令市の地域的な分布状況を考慮し、不足した地域について事例を拾い上げ

2. とりまとめる事例数及び位置付け

- ・1（2）に基づき 60～70 程度の事例を拾い上げ、当初の 60 事例と合わせて約 120 事例を平成 22 年度にとりまとめる。
- ・特徴的な取組事例は今後も継続して事例を追加する可能性を残しておく。
- ・事例紹介冊子（ガイドブック）及び検索システムとして、「里地里山保全活用行動計画」とあわせて全国に幅広く情報発信していく。
- ・平成 20 年度にとりまとめた 60 事例の「概要調書」と同様に整理を行うとともに、概要をまとめる。

3. とりまとめの結果

1) 今回とりまとめる約 60 事例

- ・今回とりまとめる約 60 事例を「検討の課題」及び「検討の視点」別に整理し、各々の「事例の概要」（各視点に即して特に他地域の参考となると考えられる点）、とりまとめの理由となる「事例の特性」（各視点に即して 60 事例の不足を補うと考えられる点）、「評価実績等」、「自然・社会的条件」をまとめると、表 2 のとおり。

2) 約 120 事例

- ・平成 20 年度にとりまとめた 60 事例と合わせ、取組の特徴と地域的な分布状況等を一覧表に整理すると、表 3 のとおり。
- ・都道府県別の事例数とその内訳については表 4 参照。

表1 検討の視点ごとの分析

保全・活用の課題	検討の視点	取組促進要因の分析
農林業を軸にした自然資源の持続的な管理・利用の推進	景観や生物多様性の保全等を契機にした伝統的な農の営みの活性化	環境保全型農業（冬季湛水など）、耕作放棄地の再生、適正な間伐等の植林地管理、循環型利用・管理の再開などの取組が見られる。集落全体での取組が不可欠であり、地元住民や土地所有者の参加意欲喚起、体験・交流の促進等がポイントになっている。
	里地里山イメージを活用した農林産品の高付加価値化と販売力の強化	産品の地域ブランド化（認証制度導入など）や加工品づくりが行われ、オーナー制度、地産地消の仕組みづくりなどを通じた販売機会の拡大、流通・販売ルートの開拓が進められている。シンボルとなる生きものや、体験・交流空間の提供等により、地域イメージの強化や魅力発信を行うことがポイントとなっている。
	間伐材やチップなどの活用による新たな資源価値の発掘	里地里山の自然資源を活用した新たな製品化や、利用技術の開発（発電用熱源化、ペレット化など）に際し、経済性確保のための技術的工夫や需要創出、製品市場の開拓（利用グループ組織化など）が重要になっている。
野生動植物やその生息地の保全・管理	生物多様性に富み、人々に豊かと感じられる里地里山環境の保全、創出	生息地保全に必要な維持管理の継続（枝打ち・下草刈り、水路浚渫など）、営農方法の転換（減農薬、栽培種の転換など）、外来種駆除、野生動植物生息調査などが行われている。地域住民の生きものへの関心や価値認識の向上への取組のほか、生物多様性保全のための総合的な環境管理方針の設定、モニタリングに基づく順応的な管理に留意した取組などがポイントになっている。
良好な景観の保全、伝統的生活文化の智恵や技術の継承	里地里山の景観や生活文化の再評価と地域資源としての活用	荒廃田畑での作物栽培ややぶの手入れなど維持管理活動の継続・復活、維持管理や資源利用を通じた伝統的な知恵や管理技術の継承（石積み塾、萱葺き民家再生など）、そのための人材確保・養成、ふれあいや体験・交流の場として、里地里山の自然資源を活用した公園整備などが行なわれている。都市との交流促進・情報発信など資源活用の成果を確認したり、伝統行事を継続すること等により幅広い住民の関心や意識向上を図ることがポイントになっている。

保全・活用の課題	検討の視点	取組促進要因の分析
里地里山の価値に対する社会的な認識の向上、環境教育等の場としての活用	里地里山に対する社会的認識の向上	自然観察や体験活動を通じた認識の向上、総合学習の活用などによる環境教育・学習、広報やワークショップ等による普及啓発などが行われている。地域の自然や歴史・文化を知る手がかりの発掘・提示、わかりやすいテーマ設定や参加のきっかけづくりがポイントになっている。
	環境学習等のプログラムの開発・運営	自然観察会や生きもの調査、自然体験・環境保全活動の運営、農林漁業体験活動の運営、エコツーリズム・グリーンツーリズムの場への活用など幅広い取組が見られる。わかりやすいテーマ設定や参加のきっかけづくりが取組を拡大する要因になっている。
	フィールドを確保し、プログラムを運営する体制の整備	里地里山の自然資源を活用した公園の開設と住民・活動団体による管理運営、地元集落・NPO等の連携による里山自然学校の運営、農村生活体験プランの提供などが行われている。集落ぐるみの取組が重要であり、地元案内人や技術指導員の確保、運営のためのコーディネーターの確保・育成がポイントになっている。
里地里山の管理・利用への多様な主体の参加促進	地元住民による主体的取組を促進する仕組みや体制づくり	町内会などの地域組織や小中学校を通じた保全や整備への参加・協力のネットワーク化、地元民間企業による里地里山の資源を活用した商品開発などが行われている。地域ぐるみの取組とするための合意づくり、そのための地元の発意や地元リーダーによる活動の重視、Uターン・Iターン促進による新たな担い手の確保などがポイントになっている。
	地元と外部の協力・連携による取組を促進する仕組みや体制づくり	地域外の主体（活動団体・企業・大学等）と地元地権者等のニーズをマッチさせる仕組みづくりや協力・連携促進のための協議会結成、コーディネート組織の育成などが行われている。協定等締結に行政が関与することによる連携・協働の安定と継続性の確保、行政による側面的支援（技術、資金、人材情報提供など）がポイントとなっている。
里地里山の管理・利用手法の再評価と新たな手法の開発	伝統的な里山管理手法の再評価と技術の継承	地域の環境と適合し生物多様性や良好な景観をもたらしている管理・利用手法の継承や技術継承のための後継者の育成などが行われている。複合的な資源利用の組合せ、生活文化との一体化や、生態系保全と営農の両立を目指すなど持続可能性を実現させることがポイントになっている。
	現代の里地里山に適用可能な持続可能な資源管理手法の確立	野生動植物生息に適した環境を維持・再生する順応的な管理技術・手法や、省力化・効率化を通じて事業化を可能にする資源管理の技術・手法の確立（製炭、堆肥化、獣害対策など）の試みが行われている。樹林地、耕作地、水辺など異なる土地利用要素を混在させることへの配慮や複合的なメリットを明らかにすることなどが目立っている。

表2 特徴的などりまとめ事例(平成22年12月分)

保全活用の 検討課題	検討の視点	地区名	整理 番号	事例の概要	アンケート 以外	理由				
						「検討の視点」からみた 事例の特性	評価実績等	自然・社会的条件		
								立地	二次林タイプ	地域的分布
①農林業を 軸にした自然 資源の持続 的な管理・ 利用の推進	景観や生物多様性 の保全等を契機に した伝統的な農 の営みの活性化	ブナ北限の里「黒松 内」 (北海道黒松内町)	61	北限のブナ自生地であることと農村特有の風景を活かした体験・滞在型まちづくり活動の一環として、ササ地でのブナ林再生のプロジェクトを立ち上げ、地元企業や森林管理局の協力のもと、ブナの苗木づくり、森づくりを進めている。		特徴ある地域の特性に適 合した農林業	「にほんの里100選」	その他 (シラカンバ等)	北海道	
		河和田東部 (福井県鯖江市)	62	鳥獣害対策に当たり、集落の土地が入り組んでいることから4集落が連携して電気柵設置や里山林内放牧を実施。これを機に、4町内からなる河和田東部美しい山里の会を設立し、農地や山林の保全と活性化に取り組んでいる。		適正な樹林地管理の再開				
		祝島・石垣の棚田 (山口県上関町)	63	急勾配斜面の棚田など島の特性を活かした第一次産業を継承するとともにその基盤となっている自然環境の保全に島ぐるみで取り組む。放牧養豚など新しい試みにも挑戦し、持続可能な資源利用を進めている。	○	環境保全型農漁業	「にほんの里100選」 「島の宝100景」	島嶼		
	里地里山イメージ を活用した農林産 品の高付加価値化 による持続可能性 の向上	ミコハラ 神子原地区 (石川県羽咋市)	64	地域農家の100%出資で「榊神子の里」を創業し、地産地消ひ直売所経営によって自活・自立を目指しながら、棚田オーナー制度を活用したブランド米販売、都市住民との交流や移住促進などを組み合わせ地域活性化を進めている。		地域ブランド化、地産地消 の追求				
		京ヶ原 (鳥取県鳥取市)	65	標高600m付近にある棚田の用水路維持保全活動にボランティアを募るとともに、棚田では酒米を作り、雨滝の名水を使って地酒の製造・販売を行っており、作業後は地元手料理で参加者をもてなしている。		加工品づくりとその活用		高地 (標高約600m)		
	間伐材やチップな どの活用による新 たな資源価値の発 掘(利用技術開発 と市場開拓)	鎌倉山 (栃木県茂木町)	66	里山林の落ち葉を資源として位置づけ、有機物リサイクルセンターに持ち込むことで優良な堆肥化原料となり土壌回復や減農薬に役立てることにより、荒れた山の下刈り作業も進み、地域環境の保全・向上につながっている。		新たな製品化や利用技術 開発		コナラ (東日本)	栃木県	
		赤目の里山 (三重県名張市)	67	里地里山保全のため里道での草刈りや自然観察会などを行っている活動団体が、ミニベレタイザーとベレットストーブを作った小規模、分散自立型の木質バイオマスネットワークを提言し、取組を進めている。		製品の需要創出、市場づく り			三重県	
②野生動植物 やその生息地 の保全・管理	生物多様性に富 み、人々に豊かと 感じられる里地里 山環境の保全、創 出	弘前だんぶり池 (青森県弘前市)	68	市民・事業者・行政が協働して、貴重なトンボ等が残っていた休耕田を対象にビオトープづくりを始めた。現在は補修作業や草刈り作業等の維持管理を行うとともに、ホテル観察会など自然学習の場等として活用している。		野生動植物の生息環境づく り	「田園自然再生活動コン クール」受賞(H19)	ミズナラ		
		矢沢地域 (岩手県花巻市)	69	淡水域の希少生物であるタナゴのいるため池に戻すため、地元住民が保護する会を立ち上げ、外来種の駆除、地域の子どものための環境教育、先進地との交流などを通じて水辺環境の保全活動を展開している。	○	希少水生生物保護、外来 種駆除	「農村景観・自然環境保 全再生パイロット事業」 「田園自然再生活動コン クール」受賞(H18)		岩手県	
		天覧山・多峯主山 (埼玉県飯能市)	70	開発中止となった大規模住宅開発計画地を対象に、NPO主体で、谷津の周辺の樹木、ササ、ヨシ原を除去し、日照を回復するとともに、耕作放棄水田のための池整備により、水辺の生物の保全・増加を図っている。		生息地保全のための里地 里山維持管理活動				
		下大和田谷津、猿橋 谷津 (千葉県千葉市)	71	市内でも有数の自然資質を持つ谷津環境を回復すべくNPOが主導して、自然観察会、援農による古代米稲作、隣接する斜面林の手入れなどを実施。子どもたちがメダカ、ドジョウ、カブトムシ、クワガタを取れる貴重な場となっている。		住民への関心喚起、営農 方法の改善			政令市	
		奈良川源流域の谷 戸・樹林地 (神奈川県横浜市)	72	多くの貴重な動植物が生息するが開発負荷の大きい鶴見川支流の奈良川源流域をフィールドに、環境保全活動グループがモニタリングサイト1000調査活動、環境教育支援、公開観察会、地域住民とふれあう行事などを行っている。		野生動植物生息調査等の 実施			政令市	

保全活用の 検討課題	検討の視点	地区名	整理 番号	事例の概要	アンケート 以外	理由					
						「検討の視点」からみた 事例の特性	評価実績等	自然・社会的条件			
								立地	二次林タイプ	地域的分布	
		桶ヶ谷沼 (静岡県磐田市)	73	桶ヶ谷沼ビジターセンターを拠点として県、市、地元研究者、NPO法人等が連携して活動。シンボルとしてのベッコウトンボを保護することで多様な動植物も保護できると考え、沼および周辺の水田、雑木林の管理を行っている。		シンボル種の保全・活用による住民への関心喚起					
		メサンベ 女三瓶山(東の原) (鳥根県大田市)	74	希少種ウスイロヒヨウモンモドキの県内唯一の生息地である草原を維持するため、行政、NPO、大学、地元小学校等が役割分担して調査、人工飼育、放虫、食草植栽などの作業を行っている。		草索性希少動植物の保全・管理		高地 (標高550~ 800m)	コナラ (西日本)		
③良好な景 観の保全、 伝統的生活 文化の智慧 や技術の継 承	里地里山の景観や 生活文化の再評価 と地域資源として の活用	キトウゴ 木藤古集落(バッテリー村) (岩手県久慈市)	75	戸数5戸の集落住民が自然条件と各自の技術を活かして、豆腐引き、炭焼き、山林散策、郷土料理作りなど、山村ならではの伝統技術を伝承。体験プログラムを通して長年に渡る都市住民との交流を継続している。	○	山村の伝統文化や技術の継承				岩手県	
		坪沼地区 (宮城県仙台市)	76	「結い」の精神が生き続ける農村地域で、豊かな地域資源を活用し都市住民との交流活動に取り組む。栽培指導型農園開設や各種体験事業のほか、小学校と地域が連携した米づくりや生活文化の伝承などにより地域活性化を目指す。		都市との交流向け資源としての農村文化活用				政令市	
		国営昭和記念公園 「こもれびの里」 (東京都立川市)	77	行政、市民ボランティア、専門家等の協働により国営公園内に昭和30年代の武蔵野の農村風景を再現。市民ボランティアは、整備段階では専門家の指導を受け田畑を開墾、管理段階では体験型イベントを開催するなど、エリアの管理に積極的に参加している。		農村景観再生のための維持管理への市民参加					
		針江地区 (滋賀県高島市)	78	比良山の伏流水を汲み上げ、各戸及び集落全体で利用する水文化があり、これを再評価し維持しながらエコツアーに活用。琵琶湖畔のヨシ刈りや用水路維持管理を通じ、景観保全や生きものの生息環境保全にも貢献している。		資源利用の伝統的知恵や文化の継承	「田園自然再生活動コンクール」受賞(H21)		コナラ (西日本)		
		美山町江和地区 (京都府南丹市)	79	民家の近くに迫った手入れの行き届かない人工林を伐採し、災害と鳥獣被害に強い集落づくりとともに、里山復活による集落景観づくりを推進。古来からの自生樹木や景観樹木の植樹、山野草専門家による環境学習等もやっている。		人工林の適正管理による里地里山景観復活					
		森地区 (大阪府交野市)	80	民間企業が中心となり、古くは枕草子や太平記にも詠われた交野桜の復活を目指し、放置されて荒れた森林にサクラやツツジなど広葉樹を植林するなど、「サクラとツツジの里山づくり」の活動を実施している。		歴史的景観の復元					
		トノミネ 砥峰高原 (兵庫県神戸市)	81	かつて放牧地であったが放牧利用のなくなったススキ草原を、今も地元集落住民が火入れを行い維持管理している。火入れの一般公開、観月祭など観光資源として活用することにより、草原保全と両立を図っている。	○	観光資源としての草原の維持と活用		高地 (標高800~ 900m)	コナラ (西日本)		
		中山千枚田 (香川県小豆島町)	82	水利組合の組合員が中心になり、耕作放棄された棚田に対し、春の除草剤の散布、夏の雑草刈り、秋の草刈り、初冬の野焼き等の作業を行い、千枚田の景観を保全。集落では、伝統ある農村歌舞伎の後継者育成にも努めている。		耕作放棄棚田の景観保全	「にほんの里100選」 「日本の棚田百選」		島嶼		
		石畳地区 (愛媛県内子町)	83	地域の伝統文化や景観保全を目的とした「村並保存運動」として、「石畳むら並み博物館」と称した地域の生活風景保全のための啓発を行うとともに、製炭によるクヌギ林の継続的維持、石積み、水車作りの技術の継承などに取り組む。		集落景観と管理技術等の継承	「美しい日本のむら景観百選」				
		鴻ノ巣山特別緑地保 全地区 (福岡県福岡市)	84	里山・田園地帯で都市化が進み、尾根に残されたかつての薪炭林は貴重な都市緑地となった。その保全のため、地元の専門家がボランティアで技術指導や安全管理のノウハウを提供し、繁茂した常緑広葉樹の除間伐を進めている。		都市内緑地としての里山景観維持管理			シイ・カシ	政令市	
井上地区 (大分県豊後大野市)	85	360年間維持されてきた農業水利施設を活用して農業生産を継続し、農村文化を保全。農道補修や彼岸花の植栽、子どもたちとの生き物調査等、未来に拓く活動を地域主体で実施している。		歴史的な水辺環境の保全と活用	「疏水100選」		シイ・カシ				

保全活用の 検討課題	検討の視点	地区名	整理 番号	事例の概要	アンケート 以外	理由				
						「検討の視点」からみた 事例の特性	評価実績等	自然・社会的条件		
								立地	二次林タイプ	地域的分布
		キジヨカ 喜如嘉地区 (沖縄県大宜味村)	86	芭蕉布は、集落背後の山林に自生する糸芭蕉の繊維を糸にして織った布で、かつては日常衣料としても広く使われ作られていた。喜如嘉地区ではこの芭蕉布製作の伝統が、現在も婦人達の協同作業によって传承されている。	○	資源利用技術・文化の伝承と現代的活用	「H20調査結果(里地里山の歴史の変遷と伝統的な利用管理手法)」		シイ・カシ	沖縄県
④里地里山の価値に対する社会的な認識の向上、環境教育等の場としての活用	里地里山の価値に対する地域の認識の向上	龍谷大学「龍谷の森」 (滋賀県大津市)	87	森を持つ大学が「里山学・地域共生学」との位置付けのもと、行政・市民とのパートナーシップにより生態系保全と環境教育及び市民参加の里山活動を実施。新たな里山利用モデルを構築し、全国に発信することを目指している。		大学での取組を通じた市民の認識向上				
		北田地区 (徳島県海陽町)	88	中山間地の中学校の総合学習の一環で、隣接する棚田の休耕地を再生しビオトープを造成。地元製材業者、林業者、建設業者などの協力により観察小屋や水路も整備され、学校の外に出て自然や社会をじかに学ぶ機会となっている。		学校を通じた地域の認識向上				徳島県
	環境学習等のプログラムの開発・運営	角川地区 (山形県戸沢村)	89	行政と協働した地域住民による地域運営学校として、自然体験学習活動を継続的に展開し、子どもたちへの環境教育、産品開発や環境保全型農業による経済活性化、エコツアーによる都市住民の受入れ等を先駆的に実施している。	○	自然体験、エコツアー等のプログラム	「田園自然再生活動コンクール」受賞(H17)		ミズナラ	山形県
		呉羽丘陵 (富山県富山市)	90	市立の動物園である富山市ファミリーパークが中心となり、人と自然を結びつける場として里山の保全管理の役割を担いながら、多様な活動団体と連携して環境教育や自然体験、伝統技術継承などのプログラムを実施している。		自然観察、調査等とセットのプログラム			コナラ (西日本)	富山県
		富田地区 (岐阜県恵那市)	91	米どころで農村景観にも優れているものの耕作放棄地の目立ってきた地区が、地元の米卸業者と協働して一般企業向けに農業体験を組み込んだ研修の場を提供することにより、地元産米のブランド化や担い手育成などを進めている。		農林業体験を活用した企業研修プログラム				岐阜県
		森と風のがっこう (岩手県葛巻町)	92	廃校を再利用したエコスクール「森と風の学校」が開校され、「もったいない、ありがたい」を合言葉にパーマカルチャーの手法を取り入れた、循環型の暮らしが実感できる施設づくりを進めている。	○	里山自然学校等	「廃校リニューアル50選」			岩手県
	フィールドを確保し、プログラムを運営する体制の整備	ナマシナ 生品・立岩地区 (群馬県川場村)	93	世田谷区との交流事業に村の自然環境を保全・育成する活動を取り入れた「友好の森事業」では、民有林80haを所有者と村で林地保存契約して健康村里山自然学校などの体験フィールドを確保しつつ、森林整備を実施している。		地権者との契約による活動フィールド確保				
		平林地区 (山梨県富士川町)	94	田畑・棚田オーナー制度や野菜収穫体験など地域外からの参加者を募り、耕作放棄地の解消や荒廃農地化の防止に取り組む。活動は地元民が講師となる町営「増穂ふるさと自然塾」自然体験プログラムと連携して行われている。		地元案内人や技術指導員の確保		高地 (標高600~750m)		
		海上の森 (愛知県瀬戸市)	95	自然保護運動の盛り上がりにより森として残された場所であり、主な地権者は行政。活動団体による自然観察会などのほか、行政、市民の連携による行事として、里づくり、森づくり、里山ものづくり、収穫祭などが行われている。		行政・市民の連携によるプログラム運営				
		上山高原 (兵庫県新温泉町)	96	草原及び森林を一体的に扱うエコミュージアムという手法により高原の生物多様性保全と持続可能な利用を進めるため、NPO法人を設立し、多様な主体の参画の下で年間30~40に及ぶ豊富なプログラムを実施している。	○	運営コーディネート機能の整備		高地 (標高750~800m)	コナラ (西日本)	
⑤里地里山の管理・利用への多様な主体の参加促進	地元住民による主体的取組を促進する仕組みや体制づくり	刺巻水ばしょうの郷 (秋田県仙北市)	97	生活用水、農業用水の水源地である水ばしょう群生地の維持保全に取り組んできた集落の住民が、「水ばしょうの里環境保全グループ」として、水源地の環境維持のため、景観形成も行いながら、取組を継続している。	○	地域コミュニティを通じた参加・協力体制 (中山間地)				秋田県
		ときがわ町里山文化園 (埼玉県ときがわ町)	98	行政が地域住民とともにかつての里山を復元し保全する目的で、公有地、私有地を含む32haを「里山文化園」に指定し、地元NPOの協力により、植生調査、薪炭林の復元などに取り組むとともに社会教育の場として活用している。		地域コミュニティ再生に向けた活動団体の協力体制 (大都市近郊)				

保全活用の 検討課題	検討の視点	地区名	整理 番号	事例の概要	アンケート 以外	理由				
						「検討の視点」からみた 事例の特性	評価実績等	自然・社会的条件		
								立地	二次林タイプ	地域的分布
地元と外部の協 力・連携による取 組を促進する仕組 みや体制づくり		夢の森公園 (新潟県柏崎市)	99	行政が里山復元と21世紀型の持続可能なライフスタイルをテーマとして公園を開設し、環境保全活動と環境教育の実施のために、市民による「里山研究」「里山づくり」「里山活用」の3グループが活動を担っている。		地元活動グループの組織 づくり (都市周辺)				
		津田・穂谷・尊延寺地 区 (大阪府枚方市)	100	地権者、市民、行政により地区単位で「森づくり推進委員会」が設けられ、複雑な所有形態でありながらも地元住民や活動団体による里山保全活動が行われているほか、自然観察会や地元中学校の体験研修等にも活用されている。		地元と外部の連携のため の参加・協力体制 (大都市近郊)	「にほんの里100選」			
		六甲山東お多福山 (兵庫県芦屋市)	101	50年以上手入れが不十分だったススキ草原を、市民グループ、研究者、行政が連携して再生する試みを開始。最適な管理方法を科学的に検証しつつ、都市近郊の強みを活かして都市住民が主体となった活動が進められている。		研究者を含む多様な主体 の参加と連携 (大都市近郊)				
		ハイヅカ湖地域 (広島県庄原市)	102	地域ビジョン推進委員会で里地里山の保全活用や地域の活性化を住民主体となって検討し、学識者も協力して間伐材や刈り取った雑草等の活用、水田の持つ環境保全機能の活用、貴重な動植物の保全の取組などを実践している。		住民主体の取組促進の仕 組み (中山間地)				
		フタバ 蔵野の棚田 (佐賀県唐津市)	103	石積み棚田を現在まで存続させてきた「手間講」の精神の延長として、都市部との交流を推進。重要文化的景観としての広報や棚田を利用した各種イベントへの協力、農地に関する相談、事業の導入等を支援する会も発足している。		中間組織を通じた地元住 民の取組促進 (中山間地)	「日本の棚田百選」			
		ブナの実塾 (山形県舟形町)	104	農家を含めた地域住民からなるグループが、農家の空き家を借用して開設した塾を拠点に、里地里山の自然資源を活用した環境教育と産品開発、地域文化の研究・伝承、地域リーダー育成等の複合的な取組を展開している。	○	地元住民主導のコーディ ネートの仕組み (中山間地)	「農村景観・自然環境保 全再生パイロット事業」 「田園自然再生活動コン クール」受賞(H18)			山形県
		湯本地区 (福島県天栄村)	105	村による地域再生計画のもと、大学と連携して地域の再生可能エネルギーを最大限利用するためのシステム構築を目指し、集落、地元活動団体を中心となって資源調査を始めとするエコミュージアム推進に取り組んでいる。		大学との連携・協力の仕組 み (奥山周辺)		高地 (標高540～ 700m)		福島県
		都立野山北・六道山 公園 (東京都武蔵村山市)	106	民有地を含む広大な都立公園において民間企業やNPOが指定管理者となり、地権者やボランティア・市民団体・学校・地域団体など多様な関係者と調整しながら、雑木林や田畑・湿地等の管理、体験・学習活動などに取り組んでいる。		企業・NPOの参加による コーディネートの仕組み (大都市近郊)				
		生田緑地 (神奈川県川崎市)	107	市街地の中に残された里山的自然を行政・市民の協働により管理することを目的に、協議会組織を作り、市民主導で谷戸の保全活動(田圃や湿地の再生保全、ハンノキ林保全など)及び観察会、自然学校などの場として活用している。		連携・協働のための協議 会と計画等 (大都市近郊)				政令市
		鎌倉広町緑地 (神奈川県鎌倉市)	108	都市緑地を開発から守った多くの市民団体が協働で田・畑の復元作業や森の手入れ、モニタリング等に取り組む。「市民主体の自立した運営組織」立ち上げに向け、市は保険加入、用具貸与、専門技術者の派遣など側面から支援。		行政による側面支援 (大都市近郊)	「田園自然再生活動コン クール」受賞(H15)			
		甲山グリーンエリア (兵庫県西宮市)	109	都市近郊に残された里地里山を、行政、専門家、企業、NPOが連携し、地元農家の協力も得て保全活用。自然環境保全連絡協議会のもとで、湿地保全ガイドラインに基づく森林整備、食育の場としての農地の活用などが行われている。		内・外のニーズをマッチさ せるための協議会と計画 等 (大都市近郊)				
	芋谷川流域の棚田 (和歌山県橋本市)	110	国際ボランティア交流受け入れをきっかけに設立された里山保全の活動チームが広く市民参加を呼びかけて、棚田の耕作放棄地を再生する取組を継続。農業に加え石組修復なども行い、新旧住民の交流の場ともなっている。		活動団体の自律的活動を 通じたコーディネート (大都市近郊)					
	飯田高原 (大分県九重町)	111	地元行政、企業、農家、NPOが自然学校を軸に連携して里地里山保全を推進。自然学校は活動主体として地元住民等と協力して田んぼや雑木林再生などを行いつつ、地元主体の活動にはNPOと運動しスタッフ参加者として協力する。		活動団体の自律的活動を 通じたコーディネート (奥山周辺)		高地 (標高800～ 1200m)			

保全活用の 検討課題	検討の視点	地区名	整理 番号	事例の概要	アンケート 以外	理由					
						「検討の視点」からみた 事例の特性	評価実績等	自然・社会的条件			
								立地	二次林タイプ	地域的分布	
⑥里地里山の管理・利用手法の再評価と新たな手法の開発	伝統的な里山管理手法の再評価と技術の継承	温海地域 (山形県鶴岡市)	112	焼畑による赤カブ栽培という林業と畑作を組み合わせた一連の伝統的な手法を継承することにより、循環型の資源利用とモザイク的土地利用を実現するとともに、400年の歴史を持つ温海カブの地域ブランド化を図っている。	○	循環型農林業 (焼畑)	「H20調査結果(里地里山の歴史の変遷と伝統的な利用管理手法)」				
		サントマシデン 三富新田 (埼玉県所沢市)	113	各戸に樹林を配する地割構成のもと、若手後継者グループが落ち葉堆肥利用等の伝統技術を活かした畑作農業を維持し、江戸時代から続く農地、雑木林、屋敷地のモザイク的土地利用と循環型資源利用の手法を継承している。	○	モザイク的土地利用 (農用林管理)	「にほんの里100選」 「H20調査結果(里地里山の歴史の変遷と伝統的な利用管理手法)」				
		白王・円山 (滋賀県近江八幡市)	114	西の湖周辺の集落では、古くからのヨシ加工産業が生業として維持され、ヨシ管理が続けられていたり、周辺湿地に点在する水田での農業活動を通じて内湖との関係が続くことにより、水郷の文化的景観が今も維持されている。	○	循環型農業 (水辺環境)	「にほんの里100選」 「田園自然再生活動コンクール」受賞(H19)				
		保津地域 (京都府亀岡市)	115	多様な関係者が保護協議会を組織し、天然記念物であるアユモドキの生息環境を保全。府・NPOによる生息調査に基づき、農・漁業者が協働して、用水路や河川の水管理と清掃作業、密漁防止対策を進めている。	○	多様な主体の参加による 用水路管理 (水辺環境)					
		孟子里山公園 (和歌山県海南市)	116	稲作水系に依存する動植物の保全を目的に、地元活動団体が生息拠点としての「とんぼ池」を管理しているほか、無農薬水田を増やす必要があるとの認識から米・ソバを栽培し、収穫した産品を販売することで管理面積を増やしている。		循環型農業 (耕作地管理)	「田園自然再生活動コンクール」受賞(H17)				
		隠岐・西ノ島 (島根県西ノ島町)	117	牧畑に端を発する「牧野単位での資源管理」や「共同利用・管理」の仕組みを通じて、持続可能な土地及び自然資源の利用・管理が継続されている。以前の牧畑は、現在では公共牧野として肉用牛馬の放牧が行われている。		循環型農・畜産業 (草地)	「にほんの里100選」 「H21調査結果(自然資源の持続可能な利用・管理に関する手法例)」	島嶼	コナラ (西日本)		
		センビヨウマキヤマ 千儀蒔山 (長崎県対馬市)	118	牛馬の飼料採取がなくなり藪化が進む草原で、地元集落が主体となり、原風景を取り戻すために行政の協力を得ながら野焼きを再開した。ツシマヤマネコのえさ場環境として重要な草原を再生するとの観点からも支援が行われている。		伝統的な資源利用・管理 手法の継承 (草地)		島嶼	シイ・カシ		
		宇納間地区 (宮崎県美郷町)	119	アラカシを原木とする日向備長炭の産地として古くから有名な地区だが、今も料理用の高級炭として伝統的な手法により生産されており、利用・更新によって維持されるアラカシ低林の里山景観が一帯に広がっている。	○	伝統的な資源利用・管理 手法の継承 (薪炭林)					
	現代の里地里山に 適用可能な持続可 能な資源管理手法 の確立	ウズラ 鶉地区 (福井県福井市)	120	休耕地を利用したビオトープで育てたミズアオイの苗を営農田に移植し、そこでイネとともに無農薬栽培する。ミズアオイと共生する田んぼ作りとして冬水田んぼ、水田魚道も整備し、コウノトリを頂点とした生態系の再生を目指す。		環境保全型農法の試行 (耕作地)				コナラ (西日本)	
		船木地区 (京都府京丹後市)	121	民間企業が中心になり、バイオガス発電や森林酪農などの新たな技術を活用して、社会経済情勢の変化等によって分断されていた複合的な土地利用や自然資源の新たな「つながり」を創出している。	○	新技術の導入による循環 型資源利用 (耕作地・山林)	「H21調査結果(自然資源の持続可能な利用・管理に関する手法例)」			コナラ (西日本)	
		本城特別緑地保全地区 (福岡県北九州市)	122	市民ボランティアにより、定期的、継続的な竹の伐採、下草刈りなどの維持管理を行うとともに、企業・大学等と協働して伐採竹を活用した法面緑化、土壌改良、木材・木質バイオマス利用の実証研究と普及などの取組を進めている。		実証研究と組み合わせた 資源管理 (竹林)				シイ・カシ	政令市
		笠原地区 (福岡県八女市)	123	地元の農家・林家と都市の消費者が連携した活動団体が大学研究室と協力し、人工林の間伐や枝打ちによる下層植生の回復や林種転換、種多様性の向上などを推進。棚田の石積修復など景観保全や地域文化継承にも取り組む。		専門技術を活かした里地 里山再生 (人工林)				シイ・カシ	
		綾の照葉樹林 (宮崎県綾町)	124	日本最大級の原生的な照葉樹林を保護しながら、50～100年単位で周辺の二次林や人工林を照葉樹林に還元する試みを開始。間伐等で林内に光りを多く入れて照葉樹を自然発生させ、十分育った頃に残るスギ・ヒノキを除去していく。	○	長期スパンでの自然林回 復手法の導入 (照葉樹林)				シイ・カシ	

表3 特徴的な取組事例の候補一覧

保全再生の検討課題	検討の視点	地区名	取組の特徴	整理番号	課題分類						二次林のタイプによる地域区分							
					①農林業	②野生生物	③景観文化	④学習体験	⑤仕組	⑥手法	ミズナラ	コナラ(東日本)	コナラ(西日本)	アカマツ	シイ・カシ	その他		
①農林業を軸にした資源の持続的な管理・利用の推進	景観や生物多様性の保全等を契機にした伝統的な農の営みの活性化	金蔵地区(石川県輪島市)	集落全体で棚田営農し、歴史・文化活用の交流や特産品づくり	1	○		○	○	○	○								
		石部の棚田(静岡県松崎町)	地元主導で棚田復元し、企業、大学などに参加の輪が広がる	2	○							○						
		江里山の棚田(佐賀県小城市)	地の利を活かし減農薬で米作り、棚田景観で都市との交流も	3	○		○									○		
		ブナ北限の里「黒松内」(北海道黒松内町)	農村の生業継続へ、笹地でのブナ林再生などブナ北限の里づくり	61	○					○								○
		河和田東部(福井県鯖江市)	集落連携で行う鳥獣害対策などにより農地や山林を保全	62	○		○							○				
		祝島・石垣の棚田(山口県上関町)	島の特性を活かした第一次産業の継承・発展、「放牧養豚」の取組も	63	○		○								○			
		豊岡盆地・円山川(兵庫県豊岡市)	生きものとお米を同時に育てる「コウノトリ育む農法」を拡大、推進	4	○	○					○			○				
里地里山イメージを活用した農林産品の高付加価値化による持続可能性の向上		北庄の棚田(岡山県久米南町)	伝統的水利技術利用の棚田の米をブランド化し、オーナーにも販売	5	○										○			
		神子原地区(石川県羽咋市)	農家出資の地産地消企業などで活性化を図り、定住促進	64	○					○			○					
		京ヶ原(鳥取県鳥取市)	棚田用水路保全、酒米づくりに定期的にボランティアが参加し、交流	65	○					○				○				
		薩摩川内地域の竹林(鹿児島県薩摩川内市)	筍農家、竹チップ工場、製紙工場など竹を軸にした産業連携を形成	6	○												○	
間伐材やチップなどの活用による新たな資源価値の発掘(利用技術開発と市場開拓)		鎌倉山(栃木県茂木町)	堆肥化原料に里山の刈り、落葉収集し、土壌回復、減農薬に貢献	66	○								○					
		赤目の里山(三重県名張市)	里山保全グループにより小規模分散型木質バイオマス利用を推進	67	○	○									○			
		小計		13							0	2	5	3	2	1		
②野生動植物やその生息地の保全・管理	生物多様性に富み、人々に豊かと感じられる里地里山環境の保全、創出	ハサンベツ里山(北海道栗山町)	生物多様性に配慮した河床保全や草刈りで害獣異常発生を抑制	7		○											○	
		久保川イーハトーブ(岩手県一関市)	伝統的里山管理の維持継続で多様な動植物生息環境を確保	8		○								○				
		尖塚大池周辺(茨城県土浦市)	活動団体が多様な主体と協働し都市近郊里山を総合的に保全・活用	9		○								○				
		小佐渡東部地区(新潟県佐渡市)	トキの野生復帰を目指し、農地や森林整備と人々の理解促進	10		○						○						
		白山・坂口地区(福井県越前市)	環境保全型農業、農産物ブランド化を進め、動植物調査・保全活動も	11	○	○								○				
		河辺いきもの森(滋賀県東近江市)	行政、NPOが協力し、多様な生き物が生息できる里山づくり	12		○										○		
		いなみの台地(兵庫県加古川市ほか)	散在するため池の保全活動をネットワーク化し保全の重要性を発信	13		○		○	○	○						○		
		世羅台地周辺(広島県三原市)	ヒョウモントキ生息地地権者と覚書を交換、住民参加で保全活動	14		○										○		
		伊尾・小谷地区(広島県世羅町)	希少種保護のための営農法(品種切替含む)に地元主導で取り組む	15	○	○										○		
		舟志の森(長崎県対馬市)	持続可能な林業経営と野生生物保護目指し、企業、地元集落が協働	16		○											○	
		弘前だんぶり池(青森県弘前市)	中山間地耕作放棄水田におけるビオトープ造成、トンボやメダカ等が復活	68		○		○			○							
		矢沢地域(岩手県花巻市)	ゼニタナゴを中心とする淡水魚類の保全活動、環境教育等を実施	69		○		○						○				
		天覧山・多峯主山(埼玉県飯能市)	開発中止の用地をNPO主導で環境回復、関係企業・行政も協力	70		○				○				○				
		下大和田谷津、猿橋谷津(千葉県千葉市)	谷津田保全に古代米栽培で参加を募りメダカなどの生息場を維持	71		○				○	○			○				
		奈良川源流地域の谷戸・樹林地(神奈川県横浜市)	里地里山の自然資源を活用した公園の管理、農作業支援などを通じ源流域の生物多様性保全	72		○								○				
		桶ヶ谷沼(静岡県磐田市)	行政、研究者、NPOが連携しベッコウトンボを指標に里山保全	73		○								○				
		女三瓶山(東の原)(鳥根県大田市)	草原環境維持を通じた、ウスイロヒョウモントキの生息環境保全・管理	74		○		○	○						○			
小計				17							2	7	2	4	1	1		
③良好な景観の保全、伝統的生活文化の継承	里地里山の景観や生活文化の再評価と地域資源としての活用	富士権現山山麓(茨城県桜川市)	鎮守の森を守るため、周辺の里地里山の保全と文化継承の活動	17	○		○						○					
		谷田・武西の谷津(千葉県白井市、印西市)	里地里山のあるニュータウンを自然共生を考える住環境モデルに	18			○							○				
		越後妻有地域(新潟県十日町市、津南町)	大地の芸術祭開催によるアート作品で里山景観再認識のきっかけに	19			○	○	○			○						
		遠州南部地区(静岡県掛川市、袋井市、磐田市)	地域の各分野の専門家集団が文化伝承と農業継続の重要性を訴え	20	○		○		○					○				
		上世屋地区(京都府宮津市)	藤織り、ササ葺き家屋再生などを通じて技術伝承と里山管理	21			○	○	○						○			
		稲淵棚田(奈良県明日香村)	オーナー制定着後「棚田ルネッサンス」として共生の新しい文化発信	22	○		○		○							○		
		木藤古集落(ハツタリ村)(岩手県久慈市)	伝統的な山村文化の継承・再生、長年にわたる都市農村交流活動も	75			○								○			
		坪沼地区(宮城県仙台市)	里地里山景観活かして都市との交流進め、地域活性化・文化伝承へ	76	○		○								○			
		国営昭和記念公園「こもれびの里」(東京都立川市)	行政と協働で整備した公園内の里地里山エリアで生活行事などを継承	77			○							○				
		針江地区(滋賀県高島市)	伏流水を集落全体で利用する水文化を再評価し、エコツアーに活用	78			○	○							○			
		美山町江和地区(京都府南丹市)	荒廃した森林を住民主導で整備し、在来種の樹木で集落景観を維持	79	○		○				○					○		
		森地区(大阪府交野市)	民間企業主体で府の制度も活用し伝統あるサクラの森を再生	80			○									○		
		砥峰高原(兵庫県神河町)	ススキ草原景観保全のための伝統的手入れと観光資源としての活用	81			○								○			
		中山千枚田(香川県小豆島町)	耕作放棄田を水利組合が手入れして棚田景観を保全、伝統芸能も継承	82			○									○		
		石畳地区(愛媛県内子町)	むらびみ博物館と称し、生活風景を保全しながら石積み技術等を継承	83	○		○									○		
		鴻ノ巣山特別緑地保全地区(福岡県福岡市)	都市内に残された里山で落葉広葉樹林の回復により景観保全	84			○										○	
		井上地区(大分県豊後大野市)	歴史ある農業水利施設を活用した農業生産の継続と農村文化の保全活用	85			○	○									○	
喜如嘉地区(沖縄県大宜味村)	後背林からの多様な自然資源を利用し、染織などの伝統工芸を継承	86			○	○									○			
小計				18							1	6	3	5	3	0		
④里地里山の価値に対する地域認識の向上	環境学習等のプログラムの開発・運営	にいつ丘陵(新潟県新潟市)	市民参加の里山づくりにより山林所有者の保全再生意識向上を図る	23	○			○	○			○						
		朝倉南地区(愛媛県今治市)	公民館中心に、歴史的な風土から、地域の環境保護意識を学ぶ	24					○	○						○		
		龍谷大学「龍谷の森」(滋賀県大津市)	大学所有の里山林で市民参加の保全活動、新たな利用モデルを模索	87					○	○								
		北田地区(徳島県海陽町)	中学校の総合学習でのビオトープ整備・運営に多様な主体が協力	88		○										○		
		トヨタの森(愛知県豊田市)	企業CSRの一環として自社保有の森を環境学習や調査の場に提供	25					○							○		
		漆の里山(鹿児島県蒲生町)	里山自然学校、農業体験など通じ放棄地を減らす地元農家を支援	26					○								○	
		角川地区(山形県戸沢村)	山村文化の保護、都市農村交流、環境教育など地域で幅広い活動を展開	89			○	○				○						
		呉羽丘陵(富山県富山市)	市立動物園中心に、人、自然、文化を結びつける新しい里山活用	90					○	○					○			
		富田地区(岐阜県恵那市)	農地と景観保全に向け、米卸事業者との協働により農業体験・研修の場に	91					○	○						○		
		桜宮自然公園(千葉県多古町)	産廃問題を機に地権者同士で里山の自然を後世に伝える公園づくり	27					○					○				
		春蘭の里(石川県能登町)	地域の有志による実行委員会でも里地里山型ツーリズムを推進	28		○			○						○			
		立神峡・里地公園(熊本県水川町)	住民が里地里山の自然資源を活用した公園の維持管理に参加、公園を活用し総合学習を実施	29			○	○	○								○	
		森と風のがっこう(岩手県葛巻町)	廃校を舞台にした環境教育、里山地域資源を生かしたエコライフ実践	92					○					○				
		生品・立岩地区(群馬県川場村)	世田谷区との交流事業による多彩なプログラムを森林整備に活用	93	○				○	○				○				
		平林地区(山梨県富士川町)	「ふるさと自然塾」で地元住民講師等が多彩な体験学習活動	94		○			○	○				○				
		海上の森(愛知県瀬戸市)	里山保全のモデル地として、人材育成や情報発信へ向け役割分担	95		○			○							○		
		上山高原(兵庫県新温泉町)	地域住民はじめ多様な主体の参画と協働によるエコミュージアム推進	96					○	○								
小計				17							2	4	3	6	2	0		

保全再生の 検討課題	検討の視点	地区名	取組の特徴	整理番号	課題分類						二次林のタイプによる地帯区分									
					①農林業	②野生 生物	③景観 文化	④学習 体験	⑤仕組	⑥手法	ミズナラ	コナラ (東日本)	コナラ (西日本)	アカマン	シイ・カシ	その他				
⑤里地里山の 管理・利用 への多様な 主体の参加 促進	地元住民による主体的取組を 促進する仕組みや体制づくり	細越ホテルの里(青森県青森市)	集落全世帯がホテルの里の会を結成、関係団体と連携し再生活動	30		○					○									
		鹿島台シナイモツゴの郷(宮城県大崎市)	シナイモツゴの郷に里親制度や郷の米づくり手の会などを立上げ	31	○	○		○	○	○		○								
		東山の森(愛知県名古屋)	市民・企業・行政の協働で都市の里地里山を共有の財産として保全	32				○	○						○					
		四万十川流域(高知県四万十町)	川や自然環境に負担をかけないモノづくりで地域の生業を再生	33	○				○							○				
		刺巻水ばしょうの郷(秋田県仙北市)	地域集落による水芭蕉群生地維持保全と地域活性化の取組	97	○	○				○		○								
		ときがわ町里山文化園(埼玉県ときがわ町)	町が住民協力の下、保全目的で「里山文化園」を指定し野外博物館へ	98						○		○								
		夢の森公園(新潟県柏崎市)	里山復元をテーマとする公園を開設、市民と協働で多様な活動	99					○	○		○								
		津田・穂谷・尊延寺地区(大阪府枚方市)	地権者、市民、行政が地区単位で連携し、里山保全・整備活動	100					○	○						○				
		六甲山東お多福山(兵庫県芦屋市)	複数の市民グループの協働によるスキ草原の再生事業	101					○	○						○				
		ハイヅカ湖地域(広島県庄原市)	多様な主体の参加により、水源地域の生息環境保全と地域活性化	102		○				○	○					○				
		藤野の棚田(佐賀県唐津市)	伝統的な「手間講」に加え、交流による棚田保全支援の仕組み整備	103						○	○						○			
		突哨山(北海道旭川市)	カタクリ群落保全から公有地化した里山で、NPOと共に通年利用を工夫	34		○				○									○	
		上ノ原入会の森(群馬県みなかみ町)	上下連携による置場管理を進め、「現代版入会」の仕組みづくり	35						○	○									
		船橋市北部地区(千葉県船橋市)	NPOが森林所有者と施業の委託契約をし、整備を進める	36	○					○										
		横沢入里山保全地域(東京都あきる野市)	地域住民が行政の委託により里地里山管理と環境学習指導	37		○	○			○										
		藤野町佐野川の里山(神奈川県相模原市)	大学、専門家などの協力で都市交流を進め、地域産業で里山保全	38	○					○	○									
		秦野地域の里地里山(神奈川県秦野市)	里山ボランティアを募集し養成研修、参加しやすさを工夫	39	○	○	○	○	○	○	○									
		ライオン山梨の森(山梨県山梨市)	企業が地元と提携して維持管理労力を提供、自然体験の場にも活用	40						○	○									
	朽木針畑の里山(滋賀県高島市)	企業、NPOの特徴を活かし里山手入れや体験学習、情報発信	41				○	○	○						○					
	西山地区(京都府長岡京市)	古くからの筍の名産地で多様な主体が連携して竹林保全の活動	42		○	○			○	○						○				
	毛原の棚田(京都府福知山市)	交流事業で応援団を作るとともに府の制度により企業が森づくり活動	43	○					○						○					
	綾部市域の里山(京都府綾部市)	多様な農業体験・里山体験のプログラムを整備し、ターン促進	44				○	○	○						○					
	神於山地区(大阪府岸和田市)	里山荒廃防止のため市民、活動団体、企業、漁協、行政が協議会	45		○	○	○	○	○	○						○				
	山野草の里(奈良県桜井市)	農家・活動団体・企業・行政が連携し、産品づくりを通じて荒地復旧	46		○				○	○						○				
	西条地区(広島県東広島市)	地元酒造協会の基金を運用し、市民や大学の連携で里山保全活動	47					○	○							○				
	粉所の里山(香川県綾川町)	里山オーナー制度に参加した借主らが里山保全の自立的活動	48					○	○	○						○				
	阿蘇草原地域(熊本県阿蘇市)	野焼き、放牧、採草維持のため支援ボランティアが活躍	49	○	○	○			○	○							○			
	ブナの実塾(山形県舟形町)	山村の自然環境や生活文化の総合的かつ広域的な保全・再生活動	104						○	○										
	湯本地区(福島県天栄村)	大学・集落連携で再生エネルギー利用とエコミュージアム推進	105							○										
	都立野山北・六道山公園(東京都武蔵村山市)	民有地含む広大な都立公園で指定管理者が多様な関係者間を調整	106	○						○										
	生田緑地(神奈川県川崎市)	市街地の中の里山的自然を行政と市民の協働で保全、活用	107			○	○	○	○	○										
	鎌倉広町緑地(神奈川県鎌倉市)	都市緑地を守った多くの市民団体が協働で農地復元や森の手入れ	108			○			○	○										
	甲山グリーンエリア(兵庫県西宮市)	行政、専門家、企業、NPOが連携・協働して都市近郊農地森林保全	109						○	○						○				
	芋谷川流域の棚田(和歌山県橋本市)	活動チームが棚田の耕作放棄地を再生、新旧住民交流の場となる	110						○	○						○				
	飯田高原(大分県九重町)	地元行政、企業、農家、NPOが自然学校を軸に協力して里山保全	111						○	○	○						○			
	小計				35							5	11	3	11	4	1			
	⑥里地里山の 管理・利用 手法の再評価 と新たな手法の 開発	伝統的な里山管理手法の再評価 と技術の継承	荒川高原牧場(岩手県遠野市)	歴史的に維持されてきた牧の景観保全、湿地保全	50	○						○								
			函師小野路歴史環境保全地域と隣接地(東京都町田市)	地元農業者が都の指定地を管理し、環境保全型農業の技術指導	51	○		○		○	○		○							
			山熊田地区(新潟県村上)	焼畑のカブ、しな布など里山の技術を活用した「生業の里」を設立	52	○					○	○								
			こもろみズオオパコビオトーブ(長野県小諸市)	みズオオパコの生育環境保全に地域固有の水田農法	53		○				○	○								
			高安地区(大阪府八尾市)	伝統的水管理法の池干し再現により、希少種生息環境を再生	54		○				○						○			
			弘川寺歴史と文化の森(大阪府河南町)	地元農家の指導で炭焼き・薪の生産、販売を復活	55	○		○	○	○	○	○					○			
			北摂・黒川の里山(兵庫県川西市)	輪伐による薪炭材の採集、炭焼き、販売で、多様な生息空間を維持	56		○				○	○					○			
			秋吉台地域(山口県美祿市)	石灰岩地帯の体験農園で、伝統的なドリーネ耕作を試行	57					○		○					○			
			温海地域(山形県鶴岡市)	焼畑による循環型農林業と、温海カブの地域ブランド化に向けた取組	112	○						○	○							
			三富新田(埼玉県所沢市)	伝統的畑作農業によるモザイク的土地利用と循環型資源利用の継承	113	○						○								
			白王・円山(滋賀県近江八幡市)	琵琶湖の内湖「西の湖」でのヨシ産業をはじめとする文化的景観の伝承	114					○			○					○		
			保津地域(京都府亀岡市)	パートナーシップによる水路管理で産業と希少種保護を両立	115						○	○						○		
孟子里山公園(和歌山県海南市)		耕作放棄農地をビオトーブ化し、無農薬米・ソバを栽培、販売	116						○	○						○				
隠岐・西ノ島(島根県西ノ島町)		「牧畑」の伝統を引き継ぎ、肉用牛馬の放牧と畜産振興を進める	117	○						○						○				
千俣蒔山(長崎県対馬市)		集落行事である野焼きを復活、地域固有種などの生息環境も保全	118							○							○			
宇納間地区(宮崎県美郷町)		伝統的な里山利用である木炭生産の継続による里山景観の維持	119							○							○			
現代の里地里山に適用可能な 持続可能な資源管理手法の確立		生田地区(岩手県陸前高田市)	木炭製造の集落の歴史を背景に、木炭発電など新しい技術開発も	58	○						○									
		浦高百年の森(埼玉県寄居町)	高校同窓会が土地を借りて多様な森林を整備、環境教育にも活用	59	○				○	○										
		安堂地区(滋賀県近江八幡市)	獣害対策とバイオマス利用に放棄田・荒廃樹林を整備し、牛を放牧	60	○				○	○						○				
		鶺鴒地区(福井県福井市)	みズアオイと共生する田んぼ作りとして無農薬稲作し、生態系再生	120		○					○					○				
		船木地区(京都府京丹後市)	バイオガス発電と農畜産業の連携、民間企業が発電施設を管理運営	121	○					○	○					○				
		本城特別緑地保全地区(福岡県北九州市)	定期的なボランティアの参加で竹林伐採、竹の利用法も研究し実用化	122	○					○	○						○			
		笠原地区(福岡県八女市)	大学、活動団体の支援により、人工林の林種転換等で里山景観を回復	123						○	○						○			
		綾の照葉樹林(宮崎県綾町)	自然林回復の手法を取り入れた管理・復元、多様な主体による協定締結	124	○					○	○						○			
	小計			24								3	5	3	8	5	0			
	合計			124	件							13	35	19	37	17	3			

凡例
 当初の60事例 60
 約600事例より 46
 その他 18
合計 124

表4 都道府県別事例

地方ブロック	都道府県名	事例数	事例地区名	整理番号
北海道	北海道	3	ブナ北限の里「黒松内」(北海道黒松内町)	61
			ハサンベツ里山(北海道栗山町)	7
			突哨山(北海道旭川市)	34
東北	青森	2	弘前だんぶり池(青森県弘前市)	68
			細越ホタルの里(青森県青森市)	30
	岩手	6	久保川イーハトーブ(岩手県一関市)	8
			矢沢地域(岩手県花巻市)	69
			木藤古集落(ハツタリ一村)(岩手県久慈市)	75
			森と風のがっこう(岩手県葛巻町)	92
			荒川高原牧場(岩手県遠野市)	50
			生出地区(岩手県陸前高田市)	58
	宮城	2	坪沼地区(宮城県仙台市)	76
			鹿島台シナイモツゴの郷(宮城県大崎市)	31
	秋田	1	刺巻水ばしょうの郷(秋田県仙北市)	97
	山形	3	角川地区(山形県戸沢村)	89
			ブナの実塾(山形県舟形町)	104
福島	1	温海地域(山形県鶴岡市)	112	
		湯本地区(福島県天栄村)	105	
関東	茨城	2	穴塚大池周辺(茨城県土浦市)	9
			富士権現山山麓(茨城県桜川市)	17
	栃木	1	鎌倉山(栃木県茂木町)	66
	群馬	2	生品・立岩地区(群馬県川場村)	93
			上ノ原入会の森(群馬県みなかみ町)	35
	埼玉	4	天覧山・多峯主山(埼玉県飯能市)	70
			ときがわ町里山文化園(埼玉県ときがわ町)	98
			三富新田(埼玉県所沢市)	113
			浦高百年の森(埼玉県寄居町)	59
	千葉	4	下大和田谷津、猿橋谷津(千葉県千葉市)	71
			谷田・武西の谷津(千葉県白井市、印西市)	18
			桜宮自然公園(千葉県多古町)	27
			船橋市北部地区(千葉県船橋市)	36
	東京	4	国営昭和記念公園「こもれびの里」(東京都立川市)	77
			横沢入里山保全地域(東京都あきる野市)	37
			都立野山北・六道山公園(東京都武蔵村山市)	106
			図師小野路歴史環境保全地域と隣接地(東京都町田市)	51
	神奈川	5	奈良川源流域の谷戸・樹林地(神奈川県横浜市)	72
			藤野町佐野川の里山(神奈川県相模原市)	38
			秦野地域の里地里山(神奈川県秦野市)	39
生田緑地(神奈川県川崎市)			107	
鎌倉広町緑地(神奈川県鎌倉市)			108	
新潟	5	小佐渡東部地区(新潟県佐渡市)	10	
		越後妻有地域(新潟県十日町市、津南町)	19	
		にいつ丘陵(新潟県新潟市)	23	
		夢の森公園(新潟県柏崎市)	99	
山梨	2	山熊田地区(新潟県村上市)	52	
		平林地区(山梨県富士川町)	94	
静岡	3	ライオン山梨の森(山梨県山梨市)	40	
		石部の棚田(静岡県松崎町)	2	
		桶ヶ谷沼(静岡県磐田市)	73	
中部	富山	1	遠州南部地区(静岡県掛川市、袋井市、磐田市)	20
			呉羽丘陵(富山県富山市)	90
	石川	3	金蔵地区(石川県輪島市)	1
			神子原地区(石川県羽咋市)	64
			春蘭の里(石川県能登町)	28
	福井	3	河和田東部(福井県鯖江市)	62
			白山・坂口地区(福井県越前市)	11
			鶉地区(福井県福井市)	120
	長野	1	こもろミズオオバコピオトープ(長野県小諸市)	53
	岐阜	1	富田地区(岐阜県恵那市)	91
	愛知	3	トヨタの森(愛知県豊田市)	25
			海上の森(愛知県瀬戸市)	95
			東山の森(愛知県名古屋市)	32
三重	1	赤目の里山(三重県名張市)	67	

地方ブロック	都道府県名	事例数	事例地区名	整理番号
近畿	滋賀	6	河辺いきもの森(滋賀県東近江市)	12
			針江地区(滋賀県高島市)	78
			龍谷大学「龍谷の森」(滋賀県大津市)	87
			朽木針畑の里山(滋賀県高島市)	41
			白王・円山(滋賀県近江八幡市)	114
			安堂地区(滋賀県近江八幡市)	60
	京都	7	上世屋地区(京都府宮津市)	21
			美山町江和地区(京都府南丹市)	79
			西山地区(京都府長岡京市)	42
			毛原の棚田(京都府福知山市)	43
			綾部市域の里山(京都府綾部市)	44
			保津地域(京都府亀岡市)	115
			船木地区(京都府京丹後市)	121
	大阪	5	森地区(大阪府交野市)	80
			津田・穂谷・尊延寺地区(大阪府枚方市)	100
			神於山地区(大阪府岸和田市)	45
			高安地区(大阪府八尾市)	54
			弘川寺歴史と文化の森(大阪府河南町)	55
			豊岡盆地・円山川(兵庫県豊岡市)	4
	兵庫	7	いなみの台地(兵庫県加古川市ほか)	13
			甲山グリーンエリア(兵庫県西宮市)	109
			砥峰高原(兵庫県神河町)	81
			上山高原(兵庫県新温泉町)	96
			六甲山東お多福山(兵庫県芦屋市)	101
			北摂・黒川の里山(兵庫県川西市)	56
			稲渚棚田(奈良県明日香村)	22
奈良	2	山野草の里(奈良県桜井市)	46	
		和歌山	2	
和歌山	2	芋谷川流域の棚田(和歌山県橋本市)	110	
		孟子里山公園(和歌山県海南市)	116	
中国四国	鳥取	1	京ヶ原(鳥取県鳥取市)	65
	島根	2	女三瓶山(東の原)(島根県太田市)	74
			隠岐・西ノ島(島根県西ノ島町)	117
	岡山	1	北庄の棚田(岡山県久米南町)	5
	広島	4	世羅台地周辺(広島県三原市)	14
			伊尾・小谷地区(広島県世羅町)	15
			ハイヅカ湖地域(広島県庄原市)	102
			西条地区(広島県東広島市)	47
	山口	2	祝島・石垣の棚田(山口県上関町)	63
			秋吉台地域(山口県美祢市)	57
	徳島	1	北田地区(徳島県海陽町)	88
	香川	2	中山千枚田(香川県小豆島町)	82
			粉所の里山(香川県綾川町)	48
	愛媛	2	石畳地区(愛媛県内子町)	83
朝倉南地区(愛媛県今治市)			24	
高知	1	四万十川流域(高知県四万十町)	33	
九州沖縄	福岡	3	鴻ノ巣山特別緑地保全地区(福岡県福岡市)	84
			本城特別緑地保全地区(福岡県北九州市)	122
			笠原地区(福岡県八女市)	123
	佐賀	2	江里山の棚田(佐賀県小城市)	3
			蕨野の棚田(佐賀県唐津市)	103
	長崎	2	舟志の森(長崎県対馬市)	16
			千俵蒔山(長崎県対馬市)	118
	熊本	2	立神峡・里地公園(熊本県氷川町)	29
			阿蘇草原地域(熊本県阿蘇市)	49
	大分	2	井上地区(大分県豊後大野市)	85
			飯田高原(大分県九重町)	111
	宮崎	2	綾の照葉樹林(宮崎県綾町)	124
			宇納間地区(宮崎県美郷町)	119
鹿児島	2	薩摩川内地域の竹林(鹿児島県薩摩川内市)	6	
		漆の里山(鹿児島県蒲生町)	26	
沖縄	1	喜如嘉地区(沖縄県大宜味村)	86	

※「地方ブロック」区分は、環境省地方環境事務所の所管によるものとする。

124 件